

黒羽高校の 支援について

代表質問

政友会
高崎 和夫 議員



台風19号の 災害復旧復興に ついて

質問…特例校の支援について伺います。

答弁…黒羽高校は、地元への定着率も高く、商工業や農業の後継者となる生徒が多く、大田原市を担う人材を多く輩出する学校であり、地域になくてはならない学校であると認識しております。本年度は地域と一体となった学校づくりを進めるため、学校運営協議会が設置され、藤

原副市長が委員として参加しており、地元企業への就職希望者に対しては、協議会を通じて支援要請等があれば、適宜対応してまいりたいと思います。

質問…黒磯駅から黒羽高校へのバス運行支援について伺います。
答弁…黒羽高校が令和2年度より特例校になるため、生徒数を維持、確保したいとの理由で、市営バスを黒磯駅から黒羽高校

までの運行要望を受け、通学を目的とした朝夕各一便を運行することと致しました。路線名は黒磯駅黒羽高校線とし、運行経路は黒磯駅東口から鍋掛、寒井、堀之内を通り終点黒羽高校とする経路で、運行開始時期は令和2年4月を予定しています。

質問…日中往復、もう一便考えられないか伺います。
答弁…朝夕走らせ状況を見ます。

質問…黒羽観光やなの今後の見通しについて伺います。

答弁…昨年10月の台風19号で甚大な被害を受け、役員会を急遽開催し、取りあえず、現状の場所で復興するという方針が決まり、今年5月1日開場できる目安ができました。私も10年市長職をさせて戴き、この間水害等で3回やなが流されているという経験から、長期的に見て、

大田原の観光事業としても一番大きな事業の一つでもあり、今後場所の良い所を選定し、しっかりとした観光やなの施設をつくり、多くの方々に黒羽の地、大田原の地に足を運んで戴くメツカにしていこう。また、東日本大震災で被災した山村開発センターが手つかずで、その折、地域の活性化ビジョンなるものを創り、その周辺一帯のところ

で、地方創生、活性化のデザインの中に観光やなも一つ入れる。また山村開発センター、城址公園等の一体化の中で、黒羽のまちを中心とした再整備を進めていく。こうした形であれば、国の補助金等の導入も考えられます。災害で大きなダメージを受け、根本的にこの地域を見直した中で、今後、この地域の活性化を長期ビジョンで考えていきます。